



～部活動の意義について～

部活動は、スポーツや文化、科学等に興味と関心を持つ同好の生徒が、自発的・自主的に活動するものであり、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、活動の楽しさや喜びを味わい、学校生活に豊かさをもたらすために学校教育活動の一環として行うものです。

本校においては、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、野球、サッカー、剣道、吹奏楽、美術があり、希望生徒が入部し活動しています。

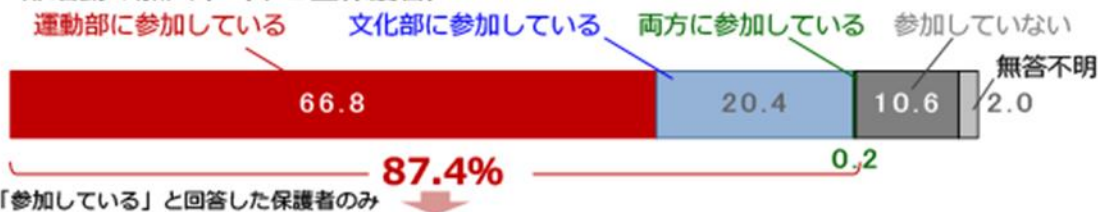
ベネッセ教育総合研究所と朝日新聞社が合同で調査した「学校教育に対する保護者の意識調査 2018」によると、「楽しく部活動に参加しているか?」という質問に対し中学2年生の保護者の約89%が肯定的に回答しています。また、「成長に役立っているか?」という質問に対しては約92%が肯定的に回答しています。

「部活動は何のためにやるのか?」という質問にどう答えられるでしょうか。日本の中学校では、部活動は「あって当たり前」、「やって当たり前」という風潮があり、部活動を行うこと自体が目的となってしまうという指摘もあります。

部活動を行うことによって、「人間関係が広がる」、「同じ志をもつ仲間ができる」、「礼儀を学ぶことができる」、「強い心を養える」等のメリットがあると考えます。

7月4日(土)・5日(日)の市中総体球技・武道大会では、部活動を頑張った者しか得ることのできない充実感・満足感を味わってほしいと願っています。

●図表20：部活動の加入率（中2生保護者）

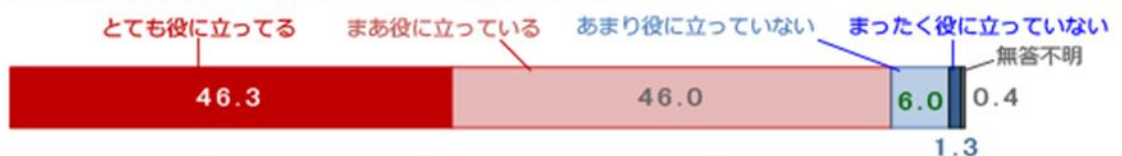


●図表21：子どもの様子（中2生保護者）

●あなたから見て、お子様は楽しく部活動に参加していると思いますか。



●部活動は、お子様の成長にどれくらい役に立っていると思いますか。



* 出典：ベネッセ教育総合研究所・朝日新聞社「学校教育に対する保護者の意識調査2018」（2017年12月～2018年1月実施）

* 対象：公立中学校に子どもを通わせる中2生の保護者3,015名。

7月の行事予定

～「学校の新しい生活様式」～

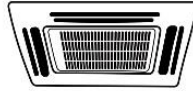
新型コロナウイルス感染症対策については、状況の変化に応じて対応が変わってきています。

本県は、感染リスクの低い地域である「レベル1」に指定されていますので、「学校の新しい生活様式」のマニュアルに従って、感染状況に応じた教育活動を行っていきたいと考えています。

主な内容は以下のとおりです。(波線部分が追加されている事項です)

1 「密閉」の回避

- できるだけ窓を開け、換気する
- エアコン使用時も換気する。



2 「密接」場面への対応

- 基本的には、マスクを着用する。
- 熱中症等の健康被害が発生する可能性がある場合は、マスクを外す。
- 体育の授業では、マスクを着用しない。
- 登下校時、人と十分な距離を確保できる場合はマスクを外す。



～ホームページについて～

本年度発行した学校だより、学校経営方針、学校沿革、校歌等については、ホームページに掲載しています。Google や Yahoo で「有家中学校ホームページ」と検索していただければ開くことができます。

なお、写真については人物が特定できないようにしたいと考えていますが、「氏名は掲載しないでほしい」といったご要望がありましたら、お知らせください。

1	水	歯科検診(3年)	
2	木	市中総体激励会 卒業アルバム写真撮影	
3	金		
4	土	市中総体球技・武道大会(1日目)	
5	日	市中総体球技・武道大会(2日目)	
6	月	振替休日	
7	火	専門委員会	
8	水	歯科検診(2年)	部活動中止
9	木		部活動中止
10	金	生徒集会・全校集会	部活動中止
11	土		部活動中止
12	日		部活動中止
13	月	期末テスト	部活動中止
14	火	期末テスト	
15	水	歯科検診(1年)	ノ一部活動
16	木		
17	金		
18	土		
19	日	家庭の日	ノ一部活動
20	月		
21	火		
22	水	県学力(2・3年) 終業式	ノ一部活動
23	木	海の日	
24	金	スポーツの日	
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	三者面談(3年) 二者面談(1・2年)	
29	水	三者面談(3年) 二者面談(1・2年)	
30	木	三者面談(3年) 二者面談(1・2年)	
31	金	三者面談(3年)	

※行事は変更になる可能性があります。

<校長室の窓から>

本校では再来週期末テストを予定していますが、「今度のテストで〇〇点以上とったら、〇〇を買ってあげる」とか「学年で〇〇以内に入ったら〇〇をしてあげる」と言われたことはないでしょうか。勉強を頑張らせたい一心で親はこんな言葉をよく口にします。誰でもご褒美をもらえば嬉しいものですが、それは最初に目指すべきことではないと思います。他者からの褒美を最優先に追い求める価値観では、真の幸せは味わえません。それは、いつも他者の評価ばかり当てにする生き方であり、いつも誰かに喜びを与えてもらうのを待つ生き方です。

自分がどのような思いで取り組み、どのような努力をし、どのように乗り越えたかを知るのは自分だけです。自分で納得して喜ぶことこそ真の幸せだと思います。まず、頑張ったこと自体に喜びを見だし、それを認めてあげる親でありたいものです